

# 春の大会が終了しました！！

春の大会が終了しました。結果は準決勝まで進出しましたが、白樺学園高校に6対13で8回コールド負けでした。支援者の方々、OB・OGの方々、保護者の方々、お忙しい中、球場まで足を運んでいただき誠にありがとうございました。ご期待に応えられるよう、より一層頑張っていきたいと思えます。

春の大会を終え、目標としていた夏の大会のシード権を確保することができました。色々課題が多かった今大会でしたが、先行されても食らいついていく、得点されても取り返す、辛抱我慢し厳しい状況を耐えしのぎ、後半にたたみかける。結果ではなくその状況に必要な姿勢、取り組みは少しずつではありますが、選手自身が実践していこうとする姿としてベンチの中で感じることができました。夏の大会に向けて、そこに注ぐエネルギー、パワーを選手自身が私から自立し、私の力を借りずにプレーできることが大きな課題ではないでしょうか。選手が試合展開を予想想像し、その試合展開に沿ったゲーム作り、それに必要なプレー、声出し、ベンチワーク、その試合展開を現実に実践できる技量。その準備を自分たちで普段の練習から取り組むことを期待しています。

自分がしたい練習ではなく、自分に必要な練習！！自分が楽しむ練習ではなく、公式戦に勝ち喜ぶために行う練習！！自分がやりたい時にやる練習ではなく、自分がチームに貢献するために行う練習！！この理屈と今あるチームの力、自分の能力、この現実をしっかりと受け入れチーム全員がそこに対して、妥協せずに3年生がチームを引っ張ってほしいと監督としては思っています。

夏の大会まで残りわずかです。『できる努力』『できる準備』は怠ることなく、浮き足立たずに調子に乗らずに個人の感情に走らずに、勢いとノリで野球をやるのではなく、選手・マネージャー・指導者、今まで常に一緒にいた仲間の『かみ合い』を大切に普段の練習をしっかりと取り組んでほしいと思っています。

これからは最後の追い込みです。精神的にも技量的にも自分で自分を追い込み、

最後のあがきをチーム全体で実践できればと思っています。今年の3年生にはそこを期待します。そこでの取り組み、姿勢態度、『かみ合い』をこの残された期間で、南商野球部に残してください。それが今年の3年生がこの南商野球部に残す大きな足跡です。最後に取り組む3年生の責任です。役割です。そこに時間とエネルギーを注いでください。その取り組みでチームを引っ張ってください。それが監督の私が最後に託す3年生の責任と役割です。

### <春の大会のメンバー>

背番号	氏名	学年	出身中学校
1.	飛世翔也	3年生	帯広第一中学校
2.	寺本光汰	3年生	帯広南町中学校
3.	小川輝及	3年生	札内東中学校
4.	川原夢輝	2年生	帯広第一中学校
5.	新井諒太	2年生	札内東中学校
6.	吉澤佳祐	1年生	帯広南町中学校
7.	大浦蒼一	2年生	音更共栄中学校
8.	谷口椋	3年生	帯広第一中学校
9.	安田智貴	2年生	芽室中学校
10.	辻丸駿斗	1年生	帯広南町中学校
11.	中井幹也	2年生	帯広第一中学校
12.	金井幹太	3年生	帯広緑園中学校
13.	遠藤祐輔	3年生	札内東中学校
14.	田丸誠也	1年生	音更緑南中学校
15.	小林奨	1年生	更別中央中学校
16.	西村拓真	3年生	帯広南町中学校
17.	岡田侑己	2年生	帯広南町中学校
18.	角田翔	2年生	帯広南町中学校

今年も4名の1年生が春の大会からベンチ入りしました。昨年は6名、一昨年は8名の1年生が春の大会でベンチに入り活躍しています。当然入学式が終了したその日から練習試合に出場する1年生もおり、南商野球部は学年関係なくチャンスが与えられます。そのチャンスを活かす1年生はベンチに入り、レギュラーとして公式戦で活躍しています。



2年と数ヶ月と言う短い高校野球人生だからこそ、練習試合でのチャンスの数、公式戦で自分自身が出場できる大会の数が問われるはずです。1年生の春の大会から最後の3年生の夏の大会まで計8大会しかないのが高校野球です。そのうち自分がその大会でベンチに入り、レギュラーとして活躍できるのは何大会なのでしょう？

当然実力の世界なので、実力のない選手はベンチに入り、レギュラーは難しいですが、自分達が最高学年で向かえる大会は3大会しかないのが現実です。そのような理由から南商野球部は学年関係なく練習試合でのチャンスを与え、そのチャンスを活かした選手は学年関係なく、ベンチに入りレギュラーとしてプレーしてもらいます。

来年も有望な選手が南商を希望してくれています。今いる選手もうかうかしてられません。実力がある選手が試合に出場し活躍するのが南商野球部です。

帯広南商業高校野球部 監督 小林 真基

# 春の大会を終えて

私たち南商野球部は、全道大会出場を目標として掲げ、チーム一丸となり練習に励んできました。結果は準決勝まで進出することができましたが、それ以上に力の差を見せつけられたと感じました。敗因としては、終盤に我慢、辛抱ができません、畳みかけられてしまったことが挙げられます。冬の期間での勉強会や、シーズンに入ってからグラウンドでの練習で培ってきた我慢強さでしたが、私たちには、まだ、それらが足りないことを、この大会を通して改めて気づかされました。結果として夏の大会のシード権を獲得することができましたが、試合内容に課題の残る大会となりました。



また、個人的にも、チームのために自分ができることをすべて果たせたかというところではないと感じています。自分がまかされた役割をしっかりと理解し、チームの勝利のためにもっとできることはあったと思います。3年生として、どんな状況にあってもベンチを盛り上げ、引っ張っていけるようにしたいです。

私たち3年生は、夏の大会を最後に引退することになります。最後の大会で、目標とする全道大会出場を果たすためにもそれに向けてチーム全体の意識を高めていく必要性を感じています。秋からの課題である「取れるアウトを取ること」、「できる努力、準備」を忘れずに、日頃の練習に取り組みたいと考えています。また、実のある練習にするためにも、チームを盛り上げ、律し、引っ張っていくことが、私たち3年生の役目だと思っていますので、夏の大会の勝利に向け、全力で取り組んでいきたいです。突然技術が向上するわけでも、打率が上がるわけでもありません。私たちは、自分の実力を自分自身で受け入れたうえで、できることに必死に取り組む残り1か月にしたいと考えます。最後の大会、勝って嬉し涙を流せるように、厳しい練習を乗り越え、最後に33人全員で代表を掴みたいと思います。



3年生 帯広緑園中学校出身 西村 拓真